



♪ CONTENTS ♪

- 森の人インタビュー
第11回 竹内優二さん
- 2014年度総会報告
- 「クリエイト・マエダ」見学
- 北区雲ヶ畑での森づくり活動
- 青蓮院見学 ● 西粟倉村視察ツアー
- 「山とまちと木造建築」キックオフミーティング参加
- 連載（森林・林業小話 20）

No.32 2014.10.18 発行

森の人インタビュー

第11回

第11回は、京都市内の日替わり店長のお店で「林業 bar」を開いている竹内優二さんにお話を伺いました。高校生の時からものづくりが好きだった竹内さんは、高校を卒業後大工になりたくて専門学校に入学。初めて行った海外でヨーロッパの建築に衝撃を受けて設計に興味を持ち、建築士になりたいと思うようになりました。

海外に行くことで、改めて日本の建築に目を向けるようになったそうです。日本建築といえばやっぱり木造。ではどうして日本の木では日本の家は建てにくいのか？なぜ国産材は高いのか？という疑問が出てきました。「これは実際山の現場に行って聞いた方がいい」と考え、「たまたまネットで見つけて知った」京都市北区雲ヶ畑での森林作業を中心とした「山仕事サークル杉良太郎」の活動に参加するようになり、興味が木造建築だけでなく山・林業にも広がりました。

現在、竹内さんは主に注文住宅を手掛けている住宅メーカーでお仕事をされています。「もっとも木が使われるのが建築分野。その中で家づくりにもっと国産材を使ってもらいたい。ただ家づくりはたくさん考えることがあり木のことに目を向けられる機会が少ない。なんとか木の良さを知ってほしい。」と考えた末、「家づくりとは違う機会に木の話に触れてもらえたら、多くの人に国産の木を選んでもらえるのではないか」と思いつきました。そこでお米を食べて農業を感じられるように食べ物から林業を多くの人に知ってもらいたい！との願いが林業 bar を始めるきっかけになりました。主に林業 bar を開いているのは「魔法にかかったロバ」という日替わりで飲食店ができるスペース。このお店にはいろんな人がいろんな思いを表現するために日替わりで店長さんが登場します。竹内さんもこのお店と出会い、自分の思いを表現したいと思うようになったそうです。

林業 bar では木で作られたネクタイでぱっちりキメた竹内店長が笑顔でお出迎え。店内には木の雑貨や、木製レゴブロック、おもちゃのチェーンソーなどが飾られていてわくわくしました。またシカ肉料理やきのこ、枰で飲めるお酒など木や山に関わるお料理も楽しめます。竹内さんは「建築の仕事をしながらか店を出す目的はここにきて山や木っていいなと感じてほしいというのがありますが、まずは山や木に関するこんな世界があるんだと知るきっかけにこの店がなってほしい。来てくれたお客さんにへーそうなんだと思ってもらえたり、お店で見たら聞いたことかをまたいろんなところで話のネタにしてもらえたら嬉



林業 bar 店長 竹内優二さん

しい。」と語ってくれました。

林業 bar は不定期でオープンですが、今回の取材では夏休み企画ということでランチタイムに開かれた「木育カフェ」にお邪魔してきました。カフェでは小学生から大学生、一般の方などいろんな人が来られていたことが印象的でした。初めて出会ったお客さん同士が知り合いになれたり、会話が盛り上がったり…「お店を通して色々な分野の人と新たに出会ったり、そのきっかけづくりができたりするのがありがたい」と竹内さん。店でのイベントが人と人とを結びつけ、「木」「山」「林業」への関心につながると思いました。

最後に竹内さんは「山でよく目にするもの、当たり前にあるものは実は多くの人が見たことがないものだったりします。私のお店ではそんなものを並べているだけで特別なことは全然やっていません。ですので、林業 bar みたいに山や木の話が聞ける機会を、いろんなところでつくってほしい。本当に山や林業に身近な人ならではのアイデアもあるだろうし、もっと地域色が出たりするとおもしろいと思います。」と話されていました。「林業」を伝えるにはきっと「林業」そのものだけを見てはいけなんでしょう。「林業」の背景には普通の生活に溢れている木製品、食べ物、住まいなど暮らしそのものがあり、その奥ではさらに文化や伝統とも繋がっていると思います。「林業」はおそらく私たちにとってすごく身近なものであるはずなのに、それを意識できるきっかけが少ない。だからこそ山や林業に関わっている人の役割が大事だと竹内さんは考えていらっしゃるようになって感じました。林業の世界に少し足を踏み入れたものとして、もっと「林業」を発信していきたいです。（豊濱）

★2014 年度総会を開催しました★

丸 10 年となった百年の会



今年は5月25日に昨年と同じ護王神社の社務所で総会が開かれました。記念講演をして下さった青田真樹さん(株式会社野生復帰計画)の話では、南丹市の美山町においてユニークな活動をされている方々を束ねる組織をつくってこれからいろいろ展開していこうとされているとのことでした。

特に印象に残った点は、同社の主要メンバーの中に狩猟をされる方がいて、体験ツアーを企画されていることでした。実際に参加すると、人間が動物として持っている「本能」の部分呼び起こすことで、「生きている」あるいは「生かされている」という実感を持てるかもしれないと思いました。他にも、1ターンなどで移住しようとする人の支援、美山町の資源を生かした商品の企画・販売などを検討されています。

講演後に会の設立 10 年の感想を参加者に尋ねたところ、絵本を作ったことが会の活動として最も印象的、10年前とは建築の周辺を取り巻く環境が大きく変わって木材のとらえ方も多様になってきたこと、木材業界の人とじかに接する貴重な機会が得られて勉強になっていることなどの発言がありました。会として活動が広がった部分をもっと伸ばしつつ、現メンバーのニーズをうまくとらえながらこれからも継続していきたいところです。(野瀬)

～北区雲ヶ畑での森づくり活動～

第2回 アカマツの種まきと広葉樹の植樹

6月8日に、雲ヶ畑で森づくり活動を行いました。梅雨に入り、雨が心配でしたが、当日は晴れて蒸し暑い中での作業となりました。前回のシカ対策ネット張りに続いて、今回は抵抗性アカマツの種まきと広葉樹の植樹を行いました。アカマツの種は、環境が厳しいところに適していると聞いた「巢まき」という方法でまきました。まず、直径10cmほどの円の円周上に5つ深さ5mmほどの穴を割り箸であけます。次に、1つの穴に1ずつ種を入れ、最後に軽土をかぶせて完了。2メートルほどの間隔でまいていき、1人約100粒、全部で1000粒の種をまきました。広葉樹は、ドングリから育てた苗を40本ほど植えました。アカマツの種まきは初めての人がばかりで、手探りでいったという具合でしたが、参加者一人ひとりがいろんなことを考え、感じる時間になったのではないかと思います。7月中頃に現場を見に行ったら、まいたアカマツの芽生えはまだ少なかったのですが、天然のアカマツやほかの草木がたくさん生えてきていました。自然の力に比べて私たちができることはほんの少しかもしれませんが、この場所がすてきな森になるようにこれからも活動を続けていきたいです。(柏木)



★「クリエイト・マエダ」見学★



5月31日に滋賀県高島市にある廃棄物処理業者である「クリエイト・マエダ」さんに見学に行きました。ここでは主に、産業廃棄物の木材(住宅の解体材、道路沿いの支障木など)を引き取り、それを加工して製紙工場や電力会社で使うバイオマス燃料チップにしたり、有機肥料にして販売したりしています。

今まで私にとっては林業現場を見学しに行くといえば、伐採現場であったり、木材市場であったり、製材所というような木材生産としての現場だったので、今回の見学はとても新鮮なものでした。

見学を通して、いらぬものをいるものに変える、という発想はとてもすごいことだなと思いました。ただ、現状として、建築物が解体されてもその一部が産業廃棄物になってしまうのはとても残念なことだと感じました。今後古い家が増えてきますが、その解体された木材の使い方をどうするべきかをもっと考えていかなければならないのではと思いました。

今回の見学や見学前の勉強を通して、林業をもっと幅広くとらえることも大切なのだと気づきました。(齋藤)

☆青蓮院見学☆



7月25日、現在移築再建中の青蓮院の青龍殿を見学してきました。青蓮院は京都市東山区の將軍塚に位置します。工事中ですが、設計担当者の方から直接説明を受けながら青蓮院の中を見ることができました。担当者さんのお話によると、移築といってもかなり多くの事務作業が必要であつたらしく、着工するまでも長い時間がかつたそうです。また、進行状況に合わせてうまく材を集めていかなければいけないので、全国各地をまわり飛びまわつたそうです。建築関係者の方が多かつたため見学中は難しい専門用語が飛び交い、専門的な部分はあまり理解することができませんでしたが、担当の方は私が基礎的な質問をした際にも丁寧に答えてくださいました。工事現場の足組をわたり、そのまま屋根の高さまでのぼることができ、とても高いところから京都市内を見渡すことができました。めつたに経験できないようなことを見聞することができました。とても楽しい見学でした。青蓮院が完成したらぜひまた訪れてみたいです。(齋藤)

京都・森と住まい百年の会×岡山・西栗倉百年の森林(もり)構想ツアー

9月25～26日(木・金)に、岡山県英田郡西栗倉村に視察ツアーに行ってきました。

今回は1ターン者6名に田舎での新たなチャレンジとその可能性についてお話を伺いました。また、施業地や間伐材工場の見学、山主さんとの対話を通して、西栗倉村が百年サイクルで利用可能な森林を目指して行う森林組合の間伐施業やその間伐材の加工・流通の流れを知ることができました。



最も印象に残つたことは、役場含め村内の皆さんが非常に前向きで、未来図を描きそれに向かって邁進しているということです。今回訪問した1ターンの方は「油が好きだから油屋になる」など、「自分のしたいことを仕事にする」という感じの話を多く耳にしました。そこには、「地域のためというよりも、自分の好きなことや生きる場所、求めるライフスタイルに合わせて仕事の種類や形態を決める」というシンプルで実はとても大切な信念がありました。西栗倉は昔から宿場町で、ソモノを受け入れる気風があるとのこと。だからこそ1ターンの方々も挑戦しやすい土壌があつたのでしょう。一人の若者が過疎の村で生業を起こすことで、地域に元気が波及します。ソモノもウチモノも、ひとりひとりが活躍する将来の西栗倉の姿が、頭に浮かびました。(内海)

「山とまちと木造建築」キックオフミーティングに行ってきました

台風が近づいて雨が降っている中で、8月9日(土)にひと・まち交流館京都で開かれた「山とまちと木造建築」キックオフミーティングに参加してきました。このイベントは、3年後の2017年に開催される第60回建築士会全国大会に向けたステップと位置づけられ、会場にはたくさんの方が集まっていました。

建築関係だからか、壇上にあがっていたのは司会を除くと男性のみでした。演者の方によると、かつて木造建築が否定的に扱われた経緯があったようですが、2010年に施行された公共建築木材利用促進法を契機に見直しが進んでいるとのこと。2013年には「木材利用の導入ガイドライン」が公表されたという話も出され、国土交通省のウェブサイトにコンテンツが掲載されていました。

ユニークな点は、リレートークの演者ごとに漢字1文字当てられ、話の中に織り込むとともに次の人につなぐよう意識的に結びの言葉を工夫するということです。中間の休みをはさんで、前半は川上の林業家から川下の住まい手に至るそれぞれの観点からみた木造住宅、後半はまちづくりや地域での取り組み紹介で、どの報告も聞き応えがありました。2015年と2016年にもイベントが開かれるみたいなので、次にどんな内容で企画されるか楽しみです。

(野瀬)



❖連載❖ (森林・林業小話 20)

木材輸出はしていないのか？

原理的な話は前回までとして、今回は木材輸出を取り上げてみます。日本は大量に木材を輸入しているイメージが強いこともあって、ほとんど輸出していないと思っている人が大半でしょう。輸入量に比べると少ないですが、主に合板や家具用の広葉樹材を輸出していた時期があったようです。量的にみると、1970年代前半までは製材品と合板を足し合わせると丸太換算で100万m³台を維持していました。その後、合板などの輸出量は次第に減っていき、1990年代前半には10万m³を割りこむほどでした。

同時期には中国向けに宮崎産などのスギ(丸太)を輸出する取り組みが始まりました。今年になってから円安の影響で増えたものの、それまでの量の変動はごくわずかでした。代わりに、1990年代半ばから木材パルプ・チップがじわじわと増えてきて、2013年には約190万m³と、1955年以降では2番目の水準になりました。これは中国が経済発展したおかげで、古紙輸出も一時期は1万トン以下に落ち込んでいたのに、2013年には約490万トンへと拡大しました。広い意味での「木材関連品」を含めると、技術力のおかげで日本はある程度の輸出国になっていたとも解釈できます。(野瀬)

京都・森と住まい百年の会 会員募集

当会は、分断された京都の森林とまちの暮らしを結んで、互いの関係がよりよいものなることを活動目的としています。お近くの方にもぜひ、NPO法人京都・森と住まい百年の会をご紹介します。

ご賛同いただける方には入会のお誘いをお願いいたします。当会の詳細、入会については事務局までお問合せください。



〒604-0931
京都市中京区寺町二条下ル櫻木町98-7
京都ベレット町家ヒノコ内
Fax:050-3309-6365
E-mail:kyoto100nen@gmail.com

京都・森と住まい百年の会

ホームページ<<http://www.kyoto100.com>>
ブログ<<http://kyotos100.blog102.fc2.com/>>

編集後記

事務局の豊濱です。会報の編集は今回で3回目となりました。「森の人インタビュー」ではいろいろな方にお話を伺えるのが楽しいです。これからもぜひ続けていきたいです♪

